

世界が認める日本の文化!

「アニメーション学」の体系化をめざして

# アニメーション の 事典

横田正夫

(日本大学教授)

小出正志

(東京造形大学教授)

池田 宏

(前 東京工芸大学教授)

【編集】

- アニメーションを関連諸分野から多角的に捉え、総合的に解説したわが国初の総合事典。
- 巻末には用語・人名解説、文献リストなど辞書的・資料的な活用に必要な情報を掲載。

B5判 472頁 上製本

定価14,700円(本体14,000円)

ISBN 978-4-254-68021-8 C3574

 朝倉書店

# 本書を推薦します

(五十音順・敬称略)

## 大山 正

前 アニメーション学会会長  
前 東京大学・日本大学教授

現在、日本のアニメーションは全世界に普及し多くの人々を魅了している。高畑勲監督が指摘しているようにわが国には12世紀の絵巻物から始まる映像文化の長い伝統がある。また、色や形や動きがあたえる感情や象徴性は、民族を超え、文化を超えて、人々に共感を与えることは、心理学的研究からも確かめられている。アニメーションは科学的、学術的研究の対象となっている。この時期に日本アニメーション学会メンバーをあげて「アニメーションの事典」を完成させたことは快挙と言えよう。アニメーションに関心を持つ広い読者に本事典を推薦したい。

## 濱野 保樹

東京工科大学教授  
前 東京大学教授

学問としての体系を確立し、教育研究を科学的なものとするためには、これまでの研究成果や知見を網羅的に俯瞰できるものが必要であった。それは、日本のアニメーションが果たしてきた経緯からしても、わが国が先導すべきものであるはずだ。「アニメーションの事典」は、その使命に応えるべくして編まれた成果である。

## 古川 タク

日本アニメーション協会会長  
東京工芸大学客員教授

わが国でのアニメーション事情についての素朴な疑問や質問が多々あって、その度に学問的な著作物を紹介しろと言われて困っていました。作家とその作品を歴史的に紹介するものはありましたが、まだまだ研究分野はこれからなのかと思っていました。ですからこの事典の登場には大いに期待しています。

ぜひ近々に英語版をはじめとする海外版も実現して欲しいと願います。

## 編集者 (※は編集委員長)

- \* 横田 正夫 日本大学文理学部心理学科教授
- 小出 正志 東京造形大学アニメーション専攻領域教授
- 池田 宏 前 東京工芸大学アニメーション学科教授

## 執筆者 (五十音順)

- |          |                |                |              |
|----------|----------------|----------------|--------------|
| 朝倉 徹     | 東海大学           | ジャンルベルト・ベンダツツイ | ミラノ州立大学      |
| 池田 宏     | 前 東京工芸大学       | 須川亜紀子          | 関西外国語大学      |
| 石田 園子    | 東京工芸大学         | 辻 泉            | 中央大学         |
| 伊奈 正人    | 東京女子大学         | 出口 丈人          | 映画評論家        |
| 今井 隆介    | 花園大学           | 土居 伸彰          | 日本学術振興会特別研究員 |
| 牛木 理一    | 牛木内外特許事務所弁理士   | 仲川 秀樹          | 日本大学         |
| 大山 正     | 前 東京大学         | 中村 浩           | 北星学園大学短期大学部  |
| 岡 隆      | 日本大学           | 野村 康治          | 日本大学         |
| 小笠原喜康    | 日本大学           | パク・キリョン        | 中央大学(韓国)     |
| 岡部 昌樹    | 金沢星稜大学         | 羽生 和紀          | 日本大学         |
| 木船 徳光    | 東京造形大学         | 屋間 行雄          | 映像作家         |
| キム・ジュニアン | 韓国芸術総合学校       | 古田 尚輝          | 成城大学         |
| 黒田 昌郎    | アニメーション作家      | 森まさあき          | 東京造形大学       |
| 小出 正志    | 東京造形大学         | 山田 寛           | 日本大学         |
| 小林 義寛    | 日本大学           | 横田 正夫          | 日本大学         |
| 佐賀 啓男    | 旧 メディア教育開発センター | 吉岡 修           | 前 東映アニメーション  |
| 佐野 明子    | 桃山学院大学         | 吉村 次郎          | 東京工芸大学       |
| 佐分利敏晴    | アニメーション研究者     | 渡邊 伸行          | 金沢工業大学       |

## 刊行のことば

日本のアニメーションは日本の文化として世界に受け入れられ、世界的に大ヒットした作品も多い。社会の大きな関心を集め、コンテンツ産業として発展が期待されている。しかしアニメーションを学問的に捉えようとするとき、基本的な資料に限界がある。そうした限界を補うものとして本書が企画された。(中略)かつては自分の趣味や好みに従っていたアニメーションの語り手たちが、一定の専門分野の訓練を受けた研究者へと変化してきた。これは大きな時代の変化と思われる。こうした研究者たちにとって、先人の残した学問レベルを全体的に俯瞰する書物の出版は必要不可欠である。

とはいえ本書は専門家だけのものではなく、一般の学生や、アニメーションに関心を持つ多くの人たちの期待に答えるだけの内容を備えている。理論や技法について知ることができ、普段目にする事のない地域のアニメーションの歴史を踏まえて世界のアニメーションの歴史が俯瞰でき、文化や周辺学問分野との関連も理解することができる。……

こうした事典は世界的に見ても類例を知らない。まさに日本のアニメーション界の底力を示している。

(序文より抜粋)

## 内容目次

### 第1部 解説・展望編

1. 総論
  - 1.1 アニメーション研究：学問としてのアニメーション
  - 1.2 アニメーション研究の範疇と方法
2. 原論
  - 2.1 アニメーションの概念
  - 2.2 アニメーションの特質
  - 2.3 アニメーションの形式・内容
3. 歴史
  - 3.1 アニメーション史概観
  - 3.2 アニメーションの歴史：日本編
  - 3.3 アニメーションの歴史：アジア編
  - 3.4 アニメーションの歴史：ヨーロッパ編
  - 3.5 アニメーションの歴史：アメリカ編
  - 3.6 アニメーションの歴史：その他諸国編
4. 技術・表現
  - 4.1 アニメーションの制作：セル・セルライクなど描画アニメーション
  - 4.2 アニメーション撮影について
  - 4.3 立体アニメーション
  - 4.4 デジタル・アニメーション
5. 文化・芸術
  - 5.1 文化としてのアニメーション
  - 5.2 文化産業としてのアニメーション
6. 産業
  - 6.1 アニメーション産業
  - 6.2 アニメーションの事業活動
  - 6.3 アニメーションと著作権
  - 6.4 アニメーションと産業政策
7. 社会
  - 7.1 アニメーションと社会：『ゲゲゲの鬼太郎』の場合
  - 7.2 アニメーションとマス・メディア
  - 7.3 アニメーション文化の世界
  - 7.4 時代のトレンドとしてのアニメーション

- 7.5 サブカルチャーとしてのアニメーション
8. 教育
  - 8.1 映像の教育利用の歴史
  - 8.2 日本の教育におけるアニメーション
  - 8.3 日本の教育における映像利用：マルチメディアから漫画まで
  - 8.4 アニメーションの教育理論
  - 8.5 アニメーションの専門教育
  - 8.6 アニメーションと教育
9. 心理学
  - 9.1 アニメーションが動いて見える原理
  - 9.2 アニメーションと形態・色彩心理学
  - 9.3 キャラクターの心理学
  - 9.4 アニメーションと発達心理学(1)：幼児・児童向けアニメーション
  - 9.5 アニメーションと発達心理学(2)：子ども向けアニメーション
  - 9.6 友情と恋愛のアニメーション
  - 9.7 性愛・暴力とアニメーション
  - 9.8 アニメーションと社会心理学
  - 9.9 アニメーションと環境心理学
  - 9.10 アニメーションと人格心理学
  - 9.11 アニメーションと臨床心理学
  - 9.12 アニメーションと創造性

### 第2部 研究編

1. 原論
  - 1.1 映像としてのアニメーション
2. 歴史研究
  - 2.1 アニメーション映画の精神史に向けて
  - 2.2 第二次世界大戦後のアニメーション産業界—東映動画設立前後を中心に
  - 2.3 アフリカのアニメーション
3. 作家論
  - 3.1 森 康二：平和を祈念したアニメーター
  - 3.2 川本喜八郎：詩を語るアニメーション作家

- 3.3 今 敏のアニメーションにおける停滯する悪意：成人期危機と中年期危機
- 3.4 エイゼンシュテインのディズニー論
4. 作品論
  - 4.1 大藤信郎『蛙三勇士』論：軍国美談とモダニズム
  - 4.2 石森章太郎とアニメーション作品についての一考察：「幽霊船」と「空飛ぶゆうれい船」
5. 技術論・表現論
  - 5.1 アニメーションの技術開発：東映動画の技術開発（1960-1985）
6. 文化論
  - 6.1 アニメーションとアニミズム
  - 6.2 アニメーションにおける「運動=生/魂」の現象とヒューマニズムとの関係に関する考察
  - 6.3 韓国における宮崎駿作品の受容
7. 社会論
  - 7.1 社会メディアとしてのアニメーション：ポケモン事件とその対応
8. 教育論
  - 8.1 アニメーションの教育論
  - 8.2 教育普及活動でのワークショップとアニメーションの専門教育
9. 心理学的研究
  - 9.1 アニメーションにおける「動き」表現の検討
  - 9.2 バイオロジカル・モーション

### 第3部 資料編

1. 用語集
2. 人名解説
3. 文献一覧
4. 本文中アニメーション関連文献集
5. 学会誌『アニメーション研究』論文一覧

# 7 社 会

ているのであり、その変化の中に社会の変化が反映されている。

## 貸本漫画に始まる

『ゲゲゲの鬼太郎』の誕生は貸本漫画に始まる。1960年、水木しげる38歳のときに、『妖奇伝』に『幽霊一家』が発表された。これが鬼太郎の誕生である。貸本漫画で鬼太郎ものはいくつか描かれているが、その中に『一怪奇オリンピックーアホな男』がある。この作品で、鬼太郎は漫画家の水木さがるに招待状をわたし、地獄へ誘う（要するに、鬼太郎の仲間になれと誘う）。そして、水木さがるは現実には地獄へ行ってしまう（鬼太郎の仲間になってしまう）。鬼太郎は人間を地獄へ落としても平気なのである。

鬼太郎が少年漫画に登場したのが1965年（水木しげる43歳）のときである。『少年マガジン』誌上に『墓場の鬼太郎』の題で登場した。この第2話『地獄流し』（1965年、水木しげる43歳、8月1日発行）では、湿地を通して鬼太郎の自宅に侵入するやぐざ2人が、地獄に送られてしまう様子が描かれる。ひとり地獄への片道切符を使って、ひとり鬼太郎の自宅で地獄がみえるトランジスターテレビを勝手に見ていて、鬼太郎に返さなかったために、地獄へ行ってしまう。鬼太郎は取りもどしたトランジス

### 7.1 アニメーションと社会： 『ゲゲゲの鬼太郎』の場合

#### アニメーションと社会の関連

アニメーションと社会の関係を語る切り口は多くあるだろう。アニメーションをどのようにとらえるかということも問題になろうし、社会をどのように考えるかも問題になろう。アニメーションを素材にして考える場合に、アニメーションが使用されている状況を考えることもできる。劇場用作品やテレビ作品はいうまでもなく、アニメーションは多くの広告ディスプレイに使用されている。こうしたアニメーションの使用における社会的な影響を考えることもできよう。劇場用作品やテレビ作品をみってみる

#### 読者対象

- アニメーション、マンガ、コンピュータグラフィック、映像（映画・テレビ・写真）などに関わる学生および実務者・研究者
- 大学・専門学校・高等学校図書館、公共図書館 [2012年7月刊]

#### きりとり線

【お申し込み書】この申し込み書にご記入のうえ、最寄りの書店にご注文下さい。

## アニメーションの事典

B5判 472頁 定価14,700円(本体14,000円)  
ISBN 978-4-254-68021-8 C3574

冊

●お名前  公費 /  私費

●ご住所(〒 )TEL

取扱書店